

令和4年度の学校評価（中間評価）

学校評価委員会 R4.11.8 (R4.9.30 現在での中間評価)

本年度の 重点目標	『クリティカルシンキングの育成』 ・授業力の向上と確かな学力の定着 ・キャリア教育の一層の充実 ・望ましい学習習慣、生活習慣の確立 ・教職員が健康的に教育活動に従事できる環境の整備 ・帰属意識と自己有用感の涵養			
項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項（達成基準を含む）	中間評価
P T A活動 （総務部）	P T Aとの連携強化	学校における諸活動に対し、P T Aとの連携を密にし、積極的な活動を推進する。	P T Aとの連携強化のため情報発信を積極的に行う。 A：学校における諸活動を発信した 100% B：学校における諸活動を発信した 75%以上 C：学校における諸活動を発信した 50%以上 D：学校における諸活動を発信した 50%未満	4月の授業参観は1年生の保護者を対象とし、P T A総会は感染症対策をしながら予定通り実施できた。又、きずなネットの細分化により、クラスごとの連絡が可能となり、今後の情報発信を促進していきたい。
学習指導 （教務部）	観点別評価による学習評価の充実	定期考査の工夫・改善を実践する。 3観点の資質・能力を図るための評価資料の設定を推進する。	各教科と連携し、観点別評価の充実を図る。 A：充実を図ることができた教科が 100% B：充実を図ることができた教科が 75%以上 C：充実を図ることができた教科が 50%以上 D：充実を図ることができた教科が 50%未満	定期考査や学習テストに出題問題ごと評価観点を記載し、生徒にも観点別学習評価の区分を分かるようにした。また、評価資料の充実を図るために各教科既存の評価方法の検討を重ねている。
生徒指導 （生徒指導部）	携帯電話・スマートフォンにおけるマナー指導の充実	全教職員による声かけ指導を推進する。 生徒自らの行動を振り返る機会を学期ごとに設定する。	アンケートを実施し、自らの使い方を振り返らせる。 A：適切に利用できた生徒が 80%以上 B：適切に利用できた生徒が 75%以上 C：適切に利用できた生徒が 50%以上 D：適切に利用できた生徒が 50%未満	1学期末におけるアンケートでは、77%の生徒が適切に利用できていると回答した。SNSによるトラブルを防止し、適切な利用を促進できるよう、今後も継続して指導を行ってきたい。
生徒会活動 （生徒会部）	生徒主体の生徒会活動の構築	生徒会執行部を中心として生徒の意見を生かしながら、各種行事の企画・改善を図る。	アンケート等を活用し、生徒の意見を集約する。 A：80%の行事が生徒主体で企画・改善できた B：65%の行事が生徒主体で企画・改善できた C：50%の行事が生徒主体で企画・改善できた D：35%の行事が生徒主体で企画・改善できた	生徒会行事のメインである体育大会、文化祭の準備段階ではあるが、執行部の生徒の意向を図りながら準備を行っている。各行事の反省点をまとめ、翌年に生かすための話し合いなどを執行部生徒と行っている。
教育相談 （教育相談部）	問題を抱える生徒の早期発見と個々の生徒に対し、適切な対応とサポートの実施	教職員の連携と協力体制を構築する。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの効果的活用と外部機関等との連携を強化する。	教育相談に関する様々な情報を発信し、正確な状況把握と分析に努める。 A：生徒自らが教員へ相談し、的確な対応ができた B：正確な生徒情報を把握し、サポートできた C：生徒情報がある程度把握し、傾聴できた D：上記A～Cが実践できなかった	各担任や分掌等と積極的に情報を共有し、正確な情報を把握するよう努めている。また、それを受けてスクールカウンセラーや外部機関との連携も図りながら、生徒への適切な対応とサポート体制を構築している。

保健・清掃指導 (保健厚生部)	感染症対策に対する生徒の実践的行動の育成のための環境づくり	健康観察の徹底と ICT の活用 生徒による感染症予防のための環境整備及び広報活動	感染症に関する情報を常に校内で共有する。 A：生徒の実践的行動が 80%達成できた B：生徒の実践的行動が 60%達成できた C：生徒の実践的行動が 40%達成できた D：生徒の実践的行動が 20%達成できた	健康観察の入力状況を担任にフィードバックできるようになり、入力率も向上している。環境整備面では新型コロナの検査キットを適宜配布できるようにし、感染症予防に努めた。今後は「ほけんだより」も含めてそれ以外の方法も模索していく。
進路指導 (進路指導部)	キャリア教育の一層の充実と地域貢献に積極的な社会人の育成	外部講師を積極的に活用する。 進路情報を積極的に提供する。	各学年と連携し、外部講師の積極的な活用を図る。 A：外部講師の活用が 100% B：外部講師の活用が 75%以上 C：外部講師の活用が 50%以上 D：外部講師の活用が 50%未満	3年生の生徒や保護者を対象にした企業ガイダンスにおける外部講師を積極的に活用することができた。1, 2年生についても進路実現に向けて外部講師や進路情報を積極的に提供をしていく。
図書館活動 (図書館部)	図書館利用の促進のための情報発信の充実	Teams を利用して蔵書検索ができるようにする。 図書館だよりやランキング表、新刊案内等を Teams で発信する。	図書館利用の促進のための情報発信を積極的に行う。 A：図書館活動の情報発信が 100% B：図書館活動の情報発信が 70%以上 C：図書館活動の情報発信が 50%以上 D：図書館活動の情報発信が 50%未満	図書館の移転に合わせて、Teams を利用した蔵書検索システムをスタートさせ、生徒や教員が図書のデリバリーサービスを定期的に利用するようになった。図書館だよりや新刊案内等を Teams で配信した。
情報管理・情報発信 (教育情報部)	校務支援システムの運用促進 (School Engine)	校務支援システムのグループ権限を検討し、各分掌で管理運用できるようにサポートする。	校務支援システムを各分掌で管理運用する。 A：各分掌での管理運用が 100% B：各分掌での管理運用が 75%以上 C：各分掌での管理運用が 50%以上 D：各分掌での管理運用が 50%未満	校務支援システムのグループ権限を係名ごとに設定する仕様になっているため、一般グループに付与されている権限でも他グループに付与されていない場合があった。運用しながら権限を適切に設定していきたい。
商業教育 (商業科)	新しい学習評価に対応できる評価方法の実践	新学習指導要領に基づき 2 年次科目の年間学習指導計画及び評価規準を作成し試行を検討する。	評価規準を作成し試行検討する。 A：評価規準を試行検討することができた B：評価規準を試行することができた C：評価規準の作成に留まった D：評価規準の作成ができなかった	1 学期に次年度新科目の作成担当者を割り振り、9 月下旬の商業科会にて年間学習指導計画及び評価規準 (マネジメントシート) の作成講習会を行った。今後マネジメントシート完成及び試行検討をしていきたい。
総合ビジネス科	教科商業の学びを生徒が地域社会に生かすことができる取組の推進	授業にて地域社会との協働事業を設定できるように学科主任と授業担当者が連携する。	地域社会との連携授業を企画・創造する。 A：年間通して実施できた B：学期単位で実施できた C：講話のみに留まった D：実施できなかった	現在 2・3 年生全生徒が地域社会との協働授業を通年で設定している。今後も継続的に協働授業を展開し、商品開発や豊橋商業高校の生徒が地域社会に学びを還元する授業展開を実施していきたい。

情報処理科	情報活用能力を備えビジネスで活用できる人材の育成	ICT環境・高性能PCルームの長所を生かした実践的な授業に取り組む。	実践的な授業を行う。 A：90%以上の生徒が実践的な授業に取り組んだ B：70%以上の生徒が実践的な授業に取り組んだ C：50%以上の生徒が実践的な授業に取り組んだ D：実施できなかった	3年生は地域の企業や大学とPCを使った実践的な授業を行っている。2年生では発表等でICTを活用している。実践するだけに留まらず、それがどのようにビジネスで生かすことができるか考察させたい。
国際ビジネス科	ビジネスのグローバル化で必要とされる外国語及び経済の学力の定着	キャリアを意識し自信をもたせるための高度な資格取得の挑戦をさせる。	高度な資格取得に積極的に取り組む。 A：取り組んだ生徒が70%以上 B：取り組んだ生徒が50%以上 C：取り組んだ生徒が30%以上 D：取り組んだ生徒が30%未満	ビジネスのグローバル化で必要とされる外国語及び経済の学力を定着させるため、タブレット等を活用した学習を進めている。積極的に高度資格に挑戦するよう呼びかけをしている。
経理科	簿記会計の役割を理解し、その能力を活用できる人材を育成する授業の実践	授業改善の実施を促進するために学科主任と科目担当者が連携する。	授業改善に取り組む。 A：取り組んだ教員が80%以上 B：取り組んだ教員が50%以上 C：取り組んだ教員が30%以上 D：取り組んだ教員が30%未満	各担当者が創意工夫を活かし、どの教科においても授業改善に心掛けている。タブレットや書画カメラなど情報機器を活用しながら、学習させた知識を活用できる授業展開を今後も考えていく。
第1学年 (1年学年会)	目標を自ら考え、前向きに行動できる生徒の育成	学校の諸活動を通して、自己の目標を設定し、生徒が主体的に取り組めるよう働きかけを行う。	目標設定し、その実現に向けて主体的に取り組む。 A：取り組んでいる生徒が80%以上 B：取り組んでいる生徒が60%以上 C：取り組んでいる生徒が40%以上 D：取り組んでいる生徒が40%未満	ワークシートを利用し、LTや学校行事の前に見通しや計画を立てさせることで目的意識を持たせた。実践後は振り返りを通して自己評価させ、今後の目標や課題を明確化し、自己実現に向け取り組ませている。
第2学年 (2年学年会)	継続的な自己啓発の実践	学校生活における自分自身の目標及び目標を実現するための取組方法を明確化させる。	自覚を持たせ継続的に自己啓発に努める。 A：目標を達成することができた生徒が80%以上 B：目標を達成することができた生徒が60%以上 C：目標を達成することができた生徒が40%以上 D：目標を達成することができた生徒が40%未満	1学期は学習・生活・部活の3つの面から具体的に目標を示し実践させた。修学旅行や文化祭を控え、自分の役割や立場を考えさせながら、短期的な目標を持って行動するように指導している。
第3学年 (3年学年会)	主体的に進路決定し進路実現を目指す生徒の育成	主体的に進路決定し、各自の進路を実現させるために、自分で決めたことをやりきるように取り組ませる。	目標設定し、その実現に向けて主体的に取り組む。 A：取り組んでいる生徒が80%以上 B：取り組んでいる生徒が60%以上 C：取り組んでいる生徒が40%以上 D：取り組んでいる生徒が40%未満	進路指導部の講話や外部講師を利用し、進路決定への意識を高めさせた。進路を実現させるために、進路の手引きなどを活用させて、自分で目標を定め、自分で決めたことをやりきるように取り組ませている。

いじめ防止対策の推進	学校いじめ防止基本方針に基づいた、いじめ防止に係る取組の充実	アンケート調査等を利用していじめの早期発見をする。いじめの発見・通報を受けたら「いじめ防止・対策委員会」にて組織的に対応する。	いじめの早期発見等に全職員で取り組む。 A：いじめの重大事態が0件 B：いじめの重大事態が1件以内 C：いじめの重大事態が2件以内 D：いじめの重大事態が3件以上	生徒指導部のアンケート調査や担任面接などを通して、効果的にいじめの早期発見に努めている。1学期におけるアンケート調査によって発見した案件に対しては、生徒指導委員会にて迅速に対応することができた。日常の学校生活を注視し、いじめ防止に向け、今後も取り組んでいきたい。
勤務時間の適正な管理	長時間労働による健康障害の防止	1か月の時間外労働が80時間を超える教職員に対して、そのつど面接指導の希望の有無について確認を行い、教職員の健康障害防止に努める。	公務等を削減して時間外労働時間を減らす。 A：時間外労働80時間以上が0名 B：時間外労働80時間以上が3名以内 C：時間外労働80時間以上が5名以内 D：時間外労働80時間以上が6名以上	各分掌の繁忙期に支援を行う分掌援助システムを利用している。昨年度より各分掌の繁忙期と事前の支援依頼ができるホワイトボードを設置した。 施錠時間を早め、職員へ計画的な仕事の従事を促している。